

**出穂は平年より2～3日早いと見込まれます。穂肥は遅れず控えめに!!
「斑点米カメムシ類」注意報発表！ 畦畔・農道の草刈りの徹底を!!**

生育概況(普及課生育診断は6月30日現在)

平坦部 (川西町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
はえぬき	本年	45.9	832	9.5	40.8
	前年	52.4	750	9.5	44.6
	平年	46.4	658	9.1	43.2
	平年比・差	99%	126%	0.4	-2.4

平坦部 (飯豊町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
はえぬき	本年	52.7	806	10.3	43.1
	前年	52.8	477	9.9	42.9
	平年	49.0	618	9.4	44.1
	平年比・差	108%	130%	0.9	-1.0

(参考)

平坦部 (川西町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	本年	42.7	654	9.1	42.3
	前年	53.0	573	9.3	41.7
	指標	48.0	500	9.3	40.0
	指標比・差	89%	131%	-0.2	2.3

(参考)

平坦部 (飯豊町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	本年	46.4	696	9.9	42.4
	前年	52.4	488	9.8	44.1
	指標	48.0	500	9.3	40
	指標比・差	97%	139%	0.6	2.4

【概況】

6月30日現在の生育は、はえぬきは草丈、葉色は並み程度、茎数は多く、葉数はやや多い。また、つや姫は、草丈が指標値よりやや短く、茎数は多く、葉数は並みからやや多く、葉色は並みの生育となっています。

当面の対策

(1) 水管理 ～しっかり中干し、無効分けつを抑制！～

生育量が大きい場合や葉色が標準より濃い場合などは強めに行い、生育量が小さく、葉色がさめかかっている場合は弱めの中干しとします。中干し終了後は、根の活力向上のため間断かんがいを行います。

(2) 品種別穂肥の目安 ～早めの診断、穂肥は控えめに！！～

出穂時期は平年より2～3日早いと予想されます。今年は平年より茎数が多く生育が進んでいるため、**早めに生育診断を行い、茎数が多い場合は減肥**しましょう。

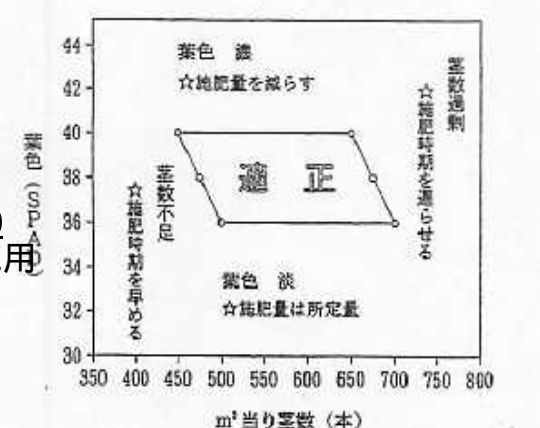
品種名	出穂期(平年)	出穂期(本年予想)	穂肥のタイミング	穂肥時期の目安	施肥量 (Nkg/10a)
ヒメノモチ	8月1日	7月29日	出穂25日前	7月4日	2.0
はえぬき	8月7日	8月5日	出穂25日前	7月11日	1.0～2.0
コシヒカリ	8月13日	8月11日	出穂18～15日前	7月24～27日	1.0～1.5

「はえぬき」の穂肥診断(7月10日頃)

茎数と葉色が適正内であれば、追肥は、**出穂25日前、窒素成分2.0kg/10a**を基本とする。

7月10日の茎数が**650本/m²以上**、または葉色が**40以上の場合**、窒素成分を減らして**1.0kg/10a**の施用とする。葉色が低下しない場合は追肥を控える。

茎数が**450本/m²以下**の場合、追肥時期を早めて対応する。



「コシヒカリ」の穂肥診断（7月20日頃）

追肥は、出穂18～15日前、窒素成分1.0～1.5kg/10aを基本とする。

倒伏程度が2以下（倒伏程度0～4評価）となる生育量（出穂前25日）の目安

葉色 (SPAD)	草丈 (cm) × 莖数 (本/m ²)	
38以下	70 × 540	} 以下
	75 × 510	
	80 × 480	

葉いもち注意!

倒伏が懸念される場合は、減肥するか、追肥を行わない



（3）葉いもち対策 ～今後の葉いもち発生に注意しましょう！～

6月30日に置賜地域の本田で葉いもちの発生が確認されています。梅雨の時期は発病に好適な気象条件となるため、圃場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

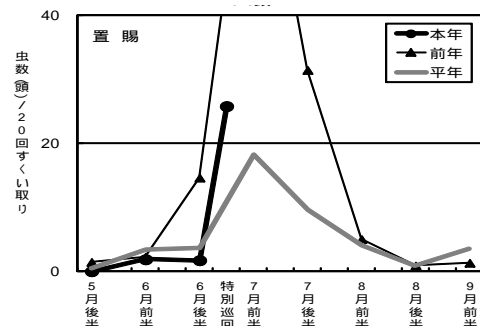
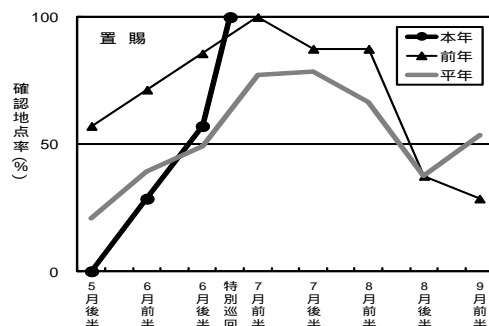
（4）紋枯病対策

紋枯病は、莖数が多く高温多湿の条件下で発生しやすくなります。例年発生が見られ、莖数が多い圃場では、紋枯病の発生が懸念されるので、圃場を観察し発生が目立つようであれば、穂孕後期までに防除しましょう。

（5）斑点米カメムシ類対策

7月2日に斑点米カメムシ類の注意報第1号が発表されました。すくい取り調査の結果、置賜地域では6月後半より特別巡回(6/30～7/1)で発生確認地点率、虫数とも平年を上回り増加しています。

イネ科雑草が繁茂している畦畔、農道周辺では発生が多くなりやすいので、畦畔及び農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底し、カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。水田内の残草処理も徹底（除草剤の使用時期を確認しましょう）しましょう。



置賜地域での斑点米カメムシ類のすくい取り状況（畦畔・農道）病虫害防除所調査



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

**地域ぐるみの
一斉草刈りで密度を減らす!**

**農作業事故と熱中症に十分注意してください！
休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！**